

2011 年 5 月

関係各位

日本道德教育学会第 77 回（平成 23 年春期）長崎大会第二次案内

日本道德教育学会会長 横山和弘
第 77 回大会運営委員長 上蘭恒太郎

謹啓

いよいよ緑濃くなって参りました。7 月 2、3 日に長崎大学教育学部で開催する第 77 回長崎大会は 21 の自由研究発表と講演会、国際シンポジウムとパネルディスカッション、4 日（月）に海外の教員による道德授業を番外編として組んで開催しようとしています。77 回大会に通底するのは、平和を基盤にしてアジアを視野に入れた道德授業です。すなわちグローバル化するアジア社会における道德教育：理念と実践 を大会のテーマに開催します。会員の皆様ならびに道德教育に関心をお持ちの方々多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

敬具

グローバル化するアジア社会における道德教育：理念と実践

日時：2011 年 7 月 2 日（土）～3 日（日）

また翌 4 日（月）に番外編：長崎大学教育学部附属小学校で台湾の先生による公開道德授業。

会場：長崎大学教育学部（長崎市文教町 1-14）

共催：長崎大学教育学部、（財）日本教育研究連合会

後援：文部科学省、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、全国小学校道德教育研究会、
全日本中学校道德教育研究会、全国公民科・社会科教育研究会

費用：大会参加費 4,000 円（研究収録を含む）

懇親会費 4,000 円

大会ホームページ：<http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/kamizono/societes/JMES/index.php>

2011 年春期第 77 回大会の詳しい情報を、大会ホームページに掲載します。ご覧下さい。

講演会：高橋眞司（長崎大学生涯学習教育研究センター客員教授）

「被爆体験と平和責任—長崎にあって哲学する」

国際シンポジウム： グローバル化するアジア社会における道德教育：理念と実践

司会：行安茂（岡山大学名誉教授）

上地完二（琉球大学准教授）

シンポジスト：長田誠（長崎大学教育学部附属小学校）、一瀬利朗（長崎大学教育学部附属小学校）、
陳延興 Yen-Hsin Chen（中正大學師資培育中心暨課程研究所助理教授）、
侯琇文 Hou, Shiou-Wen（阿里山国民小学）、張右昇 Chang, Yu-Sheng（阿里山国民小学）

パネルディスカッション：「学習指導要領（道德）—私はこう考える」

司会：岩佐信道（麗澤大学教授）

パネリスト：行安茂（岡山大学名誉教授）、林泰成（上越教育大学教授）、貝塚茂樹（武蔵野大学教授）

大会プログラム (概略)

7月2日 (土)	
11:00～12:30	理事会 (教育学部本館3階大会議室)
12:00～	受付 (教育学部本館1階ロビー)
13:00～13:20	開会行事 (学会会長挨拶、大会テーマ趣旨説明) (教育学部SCS教室)
13:25～14:40	分科会 (自由研究発表) (教育学部本館2階)
14:50～16:20	学術講演 高橋眞司 (長崎大学生涯学習教育研究センター客員教授) (教育学部SCS教室) 「被爆体験と平和責任—長崎にあつて哲学する」
16:30～18:30	国際シンポジウム: グローバル化するアジア社会における道德教育: 理念と実践 司会: 行安茂、上地完二 シンポジスト: 長田誠、一瀬利朗、陳延興、侯琇文、張右昇
18:40～	懇親会 (長崎大学生生活協同組合2階)
7月3日 (日)	
9:00 ～11:45	分科会 (自由研究発表) (教育学部本館2階)
11:50～12:50	評議員会 (教育学部本館3階大会議室)
13:00～14:00	会員総会 (教育学部SCS教室)
14:00～14:10	次期大会委員長挨拶 (教育学部SCS教室)
14:15～16:00	パネルディスカッション: 学習指導要領 (道德) —私はこう考える (教育学部SCS教室) 司会: 岩佐信道 パネリスト: 行安茂、林泰成、貝塚茂樹
道德授業公開 (番外編)	
7月4日 (月)	長崎大学教育学部附属小学校における台湾の先生による道德授業 (シンポジストの台湾からの先生が附属小学校5・6年複式学級で道德授業を行います。)

自由研究発表 1 日目 (自由研究発表は 20 分の発表、15 分の質疑応答です。各発表 5 分のゆとりをもたせています)

7 月 2 日 (土) 13:25～14:40

①道德教育の国際比較、共同研究 (203-21 番講義室)

【諸外国の道德教育の理論や実践の考察を通して今日の道德教育を考える】

司会 広川正昭 (新潟医療福祉大学講師)

(1) 長濱博文 (九州女子大学講師)

「グローバル化する日本社会に求められる道德教育の授業構想: フィリピンにおける授業実践との比較考察を通して」

(2) 新井浅浩 (城西大学教授)

「イングランドにおけるシティズンシップ・PSHE・宗教教育の連携—セルフ・エスティームを巡って」

②道德の時間、道德の授業の進め方、方法に関する実践、研究—方法論 (204-22 番講義室)

【「話し合いの場づくり」を大切にした指導の探求】

司会 七條 正典 (香川大学教授)

(1) 名塚美喜 (美浜町立野間小学校教諭)

「互いの道德的価値観を深める話し合いの場づくり」

(2) 柴田八重子 (知多郡武豊小学校・初任者指導教諭・愛知教育大学講師)

「子どもの豊かな学びを生み出す道德授業—話し合いを深める場づくりを大切に—」

③子どもを取り巻く社会と道德教育に関する研究 (206-23 番講義室)

【意識調査を手がかりに社会の中でモラルを育む】

司会 大場 茂美 (九州女子短期大学教授)

(1) 梶ヶ谷 穰 (神奈川県立海老名高等学校教諭)

「日常生活におけるモラル・マナーとは—高校生の意識調査(アンケート)から「道德」を考える—」

(2) 森川 敦子 (広島市教育委員会学校教育部主任指導主事)

石井 眞治 (広島市教育委員長・比治山大学教授)

沖林 洋平 (山口大学講師)

野中 陽一郎 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期課程

「平和を愛する心を育てるための広島市の教育の現状と課題—平和に関する意識実態調査をもとに—」

7月2日(土)14:50~16:20

学術講演

高橋 眞司 (長崎大学生涯学習教育研究センター客員教授)

(教育学部 SCS 教室)

7月2日(土)16:30~18:30

国際シンポジウム: グローバル化するアジア社会における道德教育: 理念と実践

司会: 行安 茂 (岡山大学名誉教授)、上地 完二 (琉球大学准教授)

シンポジスト: 長田 誠 (長崎大学教育学部附属小学校)、一瀬 利朗 (長崎大学教育学部附属小学校)、

陳延興 Yen-Hsin Chen (中正大學助理教授)、侯琇文 Hou, Shiou-Wen (阿里山国民小学)、

張右昇 Chang, Yu-Sheng (阿里山国民小学)

7月2日(土)18:40~

懇親会

(長崎大学生生活協同組合 2 階)

自由研究発表 2 日目 (自由研究発表は 20 分の発表、15 分の質疑応答です。各発表 5 分のゆとりをもたせています)

7月3日(日)9:00~11:45

① 道德教育の哲学、思想、理論に関する研究 (203-21 番講義室)

【古今東西の哲学、思想、理論を分析し、道德教育への今日的な意義や機能を吟味する】

司会 高島 元洋 (お茶の水女子大学教授)

(1) 岩瀬 真寿美 (名古屋産業大学講師)

「大乘仏教における悪と苦についての考察」

(2) 宮脇 賢治 (大阪市教育振興公社)

「道德的価値の内面における自覚に関する考察」

(3) 走井 洋一 (東京家政大学准教授)

「言語活動の充実と社会性の形成」

(4) 森田 美芽 (大阪キリスト教短期大学教授)

「エディット・シュタインの道德教育論」

② 道德の時間、道德の授業の進め方、方法に関する実践、研究—方法論 (204-22 番講義室)

【斬新な着眼点から新たな「道德の時間」の展開を切り拓く】

司会 柴原 弘志 (京都市教育委員会指導部長)

(1) 足立 由美子 (江東区立第三亀戸中学校教諭)

「深く考えて、ねらいにせまる道德の授業をめざして〜ハワイ P4C 教育を参考に〜」

(2) 広岡義之 (兵庫大学教授)

「読みもの資料における「道徳的な温かい場」概念の理論と実践についての一考察」

(3) 森永謙二 (久留米市立合川小学校校長)

上藺恒太郎 (長崎大学教授)

古賀佳緒里 (久留米市立合川小学校教諭)

九重真由美 (久留米市立合川小学校教諭)

「民話による道徳授業」

(4) 上藺恒太郎 (長崎大学教授)

山中太 (佐世保市立愛宕中学校教諭)

「映画と結んだ命と食の道徳授業」

③ 道徳の時間、道徳の授業の進め方、方法に関する実践、研究—資料 (206-23 番講義室)

【魅力的な教材開発や諸資料の活用を通じて、多角的「道徳の時間」の展開】

司会 竹内善一 (元鳥取大学教授)

(1) 三浦摩利 (多摩市立多摩中学校教諭)

「自作の道徳郷土資料及びDVDを使った授業実践Ⅱ」

(2) 杉中康平 (堺市教育委員会教育センター指導主事)

「道徳資料における「道徳的葛藤」と「心理的葛藤」の違いについて」

(3) 小泉博明 (文京学院大学教授)

「斎藤茂吉の死生観—長崎医学専門学校教授時代」

(4) 淀澤勝治 (兵庫教育大学準教授)

「共同的な合意形成過程をたどるための一方案に関する研究Ⅳ—ジレンマ資料「門番のマルコ」のより合理的な教材解釈を通して—」

④ 教育活動全体で行われる道徳教育に関する研究 (238-24 番講義室)

【広い教育活動の中で道徳性を育む】

司会 貝塚茂樹 (武蔵野大学教授)

(1) 湯浅阿貴子 (太子幼稚園/昭和女子大学大学院研究生)

「年中行事を通じた日本の伝統・文化に関する教育への一考察—道徳性の芽生えを育む幼児期の教育について(3)—」

(2) 作田澄泰 (広島県尾道市立三庄小学校教諭)

「生徒指導の充実から道徳性を育てる研究」

(3) 兼松儀郎 (鳴門教育大学教授)

「生きる意味の哲学的探求を促す高等学校道徳教育」

7月3日(日)14:15~16:00

パネル・ディスカッション「学習指導要領(道徳)—私はこう考える」

司会: 岩佐信道 (麗澤大学教授)

パネリスト: 行安茂 (岡山大学名誉教授)

林泰成 (上越教育大学教授)

貝塚茂樹 (武蔵野大学教授)

大会事務局: 長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部 上藺研究室

第77回大会事務局メールアドレス: jmes77@ml.nagasaki-u.ac.jp

Tel&Fax: 095-819-2386

-グローバル化するアジア社会における道德教育：理念と実践

司会：行安茂（日本道德教育学会副会長）

上地完治（琉球大学）

シンポジスト：長田誠（長崎大学教育学部附属小学校）

一瀬利朗（長崎大学教育学部附属小学校）

陳延興 Yen-Hsin Chen（中正大學助理教授）

侯琇文 Hou,Shiou-Wen（阿里山国民小学）

張右昇 Chang,Yu-Sheng（阿里山国民小学）

グローバリゼーションとは、人や物、お金、情報などが国境を越えて縦横に行き交い、地球規模で結びついている状況をさす言葉である。こうした状況においては、人・物・お金・情報などの流通が活性化し、それらが地域や文化圏の枠を越えて世界規模で行き来するようになった。交通機関の発達で地理的な距離をあっという間に短縮し、物流は世界中から商品を集めてきて私たちの日常生活を形作る。アメリカでの株の暴落が日本の労働者のボーナス減額を引き起こし、インターネットは地球の裏での出来事さえも瞬時に伝えてくれる。工業や農業といった産業、金融、政治のみならず、文化、スポーツ、観光といったさまざまな領域において、グローバル化とは私たちの暮らしに事実としてすでに展開しているのである。

しかしながら、このような社会の変化に対してわが国の道德教育はどのようなスタンスを取っているだろうか。道德や倫理に関する理念的な研究の世界では、確かに多様な価値観、ボーダーレス、多文化主義、他者理解、差異といった諸概念が重要視される傾向にある。だが、現実世界におけるグローバル化の進展に比して、このような社会変化に対応した新たな規範や価値観の模索や、さらにいえばこうしたグローバル化する社会に対する批判的吟味が、わが国の道德教育の領域において一体どの程度なされているのだろうか。現実社会における「事実としてのグローバル化」の進展に対して、「グローバル化する社会」という観点からの道德あるいは道德教育の考察が、喫緊の課題として存在しているといわざるを得ない。

グローバリゼーションの進展と学校教育に対するその影響の拡大は、わが国にとっても避けられない動向である。たとえば、地域文化圏を越えた人の交流が活性化することによって、日本で学ぶ外国籍の子どもたちの数も増加し、看過できない課題となっている。文部科学省の調査によれば、日本語指導が必要な外国人児童生徒がわが国の小学校に 19500 名ほど在籍しているという（文部科学省「日本語指導が必要な外国人生徒の受け入れ状況等に関する調査—平成 20 年度」）。これは平成 21 年度の不登校児童の数（2 万 2 千人）におよそ匹敵する数字である。また、愛知県では、全校児童の 30%が外国人児童となっている学校もある。こうした学校では日本人児童とは違う価値観・道德観を有する児童に対して、日本人児童と一緒にクラスで道德教育をおこなわなければならない。そういった場面では、多様な価値観の交流ないしは衝突が日常的に生じていると考えてよいだろう。あるいは、近い将来、海外からの教員が日本の子どもたちに道德教育をおこなう事態がやってくることも限らないし、日本で教えている一般の教員が将来海外で道德教育をおこなうこともないとはいえないだろう。

世界のグローバル化は、日本が世界の中でローカルな存在であることを浮き彫りにするし、日

本のローカルなものがアジアをはじめグローバルに活躍するという事態も生まれている。じつはグローバルとローカルは交錯しているのである。これまでの国民育成のための教育は、国家の内外の枠組みでの思考を提示してきたが、この教育の思考枠が揺れている事態が、グローバル化なのである。

道德教育は、外へと開いていくというよりも、まなざしが内向きになる傾向があると言えないだろうか。「我が国の伝統的な価値観」や、それを子どもたちに教える際に当然のごとく捉えられてしまう「道德教育はこうあるべきだ」という枠組み、こういった「内向きの区切り」が議論の前提として存在している。そしてこの枠組みは、当事者にはなかなか意識化が困難なものである。道德教育に存在するこうした自明に見える枠組みを意識化し議論の対象とするためには、外の世界からの視点が非常に有効である。したがって、「グローバル化する社会」は道德教育の「枠組み」を可視化し、改めて吟味し、必要な場合には変更を加えるよい契機となりうるのである。

本シンポジウムでは、日本から見たこの外の世界として「アジア」という地域に着目した。「アジア」という地域は、仏教や儒教の影響を共有しつつ、異なる文化をそれぞれ育んできており、日本にとっては身近であり、かつ遠く感じる地域でもある。そして、社会のグローバル化は、このアジア地域にも確実に押し寄せてきている。本シンポジウムでは、このグローバル化するアジア社会を、日本の道德教育を振り返ってみるための「契機」として位置づけてみた。

ただし、「グローバル化するアジア社会における道德教育」という本シンポジウムのタイトル自体が検討すべき重要な論点を多数含んでいて、シンポジウムの時間内に到底収まりきれものではない。そこで今回はグローバリゼーションがもたらす弊害や課題や問題点についてはある程度目をつぶり、グローバリゼーションの積極的な意義に焦点を当ててみたい。また、道德教育に関しても、理論的側面よりも実践的側面に比重をかけて議論を展開させたいと思う。

以上のような趣旨に基づいて、本シンポジウムでは次の3名の方々にご登壇いただくことにした。

まず最初に、長崎大学教育学部附属小学校教諭の長田誠氏には、今年1月に台湾の小学校でこなった飛び込み授業を通して感じたこと、考えたこと、あるいは日本と台湾での道德教育（道德授業）の異同等について気づいたことをご発表いただく。

次に、長田氏が飛び込み授業をしたクラスの担任である許雅卿氏（台湾 興中国民小学校教諭）に、授業を受けた子どもたちの様子や感想、長田氏の授業を見て思ったことなどを、実践者という立場から自由にご発言していただく。また、台湾の小学校における道德教育実践についても簡単にご紹介していただく予定である。

最後に、台湾の中正大学の陳延興氏に研究者の立場から、グローバル化するアジア社会における道德教育についてコメントしてもらう。

（文責：上地 完治）

第77回大会の宿泊と交通について：

宿泊

恐れ入りますが、宿泊は各自で手配いただきますようお願い申し上げます。宿だけを長崎で準備するよりも、交通手段とのパック料金が安いと思います。

昼食について：

恐れ入りますが、とくに昼食弁当の準備はしておりません。2日（土）は、長崎大学内では生活協同組合の食堂があいています。

交通案内と長崎大学周辺の地図

日本道德教育学会第77回長崎大会ホームページに掲載しています。ご覧下さい。

<http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/kamizono/societes/JMES/grounds.php>

なお、日本道德教育学会ホームページでもご覧になれます。

<http://doutoku-gakkai.sakura.ne.jp/>

長崎大学と周辺の地図



長崎大学教育学部は、

＊長崎空港からのリムジンバスですと昭和町経由長崎駅行きに乗車、長大裏門前で下車。

（長崎駅に行くには出島道路経由の空港リムジンバスが速いです。）

＊福岡空港からですと福岡空港国際線ターミナル前から長距離バスで長崎駅前行きに乗車、昭和町で下車、

＊長崎市内、長崎駅、浦上駅からですと、市内電車赤迫行きに乗車（120円）、長崎大学前で下車、

＊長崎市内のバスですと長崎大学前下車になります。

ホームページに、広域の地図も用意してあります。

なお、ご発表の方は、すでにご案内申し上げたように、5月末日までに第77回大会研究収録のために発表用紙をメールにてお送りいただきますよう、お願い申し上げます。

送付先：jmes77@ml.nagasaki-u.ac.jp

参加申し込みのお願い

参加人数を確認したいため、参加お申し込みをいただきますようお願い申し上げます。なお、大会ホームページからお申し込みいただけます。

日本道德教育学会第77回大会【参加】申し込み用紙

申し込み締め切り：2011年6月17日（金）

氏 名		理事、評議員の場合 理事会に参加する しない 評議員会に参加する しない
所 属・職 名		
連絡先 電話（ファックス）： メールアドレス：		
懇親会参加： 参加する 参加しない (懇親会は長崎大学生活協同組合2階でおこなわれ、懇親会費4,000円です。)		

大会事務局：長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部 上菌研究室
第77回大会事務局メールアドレス：jmes77@ml.nagasaki-u.ac.jp
Tel&Fax：095-819-2386